

年 組 名前：

古民家再生 交流の場に

カフェ

学生活動拠点

昭和の家電展示



古民家 改修工事が進む

「コミュニティスペースとして使う部屋の壁の塗り替えをする学生ら」
「いずれも甲府市丸の内2丁目

中心街 来月オープン



甲府 大悟 杉原みずき

甲府市中心街で古民家をリノベーションした、カフェとコミュニティスペースを併設した施設が、12月にオープンする。コミュニティスペースは、山梨県立大が地域住民との交流や研究拠点として活用。カフェは山梨にUターンした男性が開業する。民家の所有者が「言葉の贈り物」をコンセプトにした部屋を設けるほか、昭和時代の家具や家電も展示。多世代が集い、受け継がれてきた心や物を次世代につなぐ空間を目指す。

古民家は、同所で育った飯田千 した建具が随所に見られる。春さん(71)千葉県川が所有する リノベーションに関わる県相 頃から現存する住宅は少ないと 旧鈴村邸。平屋、1949年に 成年後見協会の代表理事で不動産関 いう。10年ほど空き家になってい 建てられた。室内には意匠を凝ら 連事業を手がける後藤貴仁さんに たが、飯田さんが大切に手入れを

続け、活用を検討していた。建築設計事務所「SHOEI」(同市)が改修を手がけた。県立大は多世代交流の部屋を運営する。高齢者健康増進サークルの学生が地域住民に足を運んでもらうきっかけとして、血圧や血管年齢測定などを計画。保健師を指導する看護学部4年の東條かれんさんは「地域のニーズを伝えてもらいながら、高齢者がやりがいを感じられる取り組みをしていきたい」と話す。10月下旬には学生が部屋の壁塗りをした。地域づくりを考える活動などの活用も検討している。

カフェを開くのは、猿田彦珈琲(東京都)創業メンバーの浅川元寿さん(37)北杜市出身。「地域とのつながりを大切にしたい」という。「愛妻家珈琲」と店名を付け、コーヒーや焼き菓子などを用意する。喫茶スペースの一角は残っていた五右衛門風呂を改修して、レトロな手洗い場も生かす。

飯田さんは長年ノートに書き留めてきた、絵本やエッセーの心に残った言葉や、新聞の切り抜きなどを一感謝里、ちほるばあばの部屋」で紹介する。家族が使っていた黒電話や鏡台といった家具、家電も展示。「地域の方に自分の来た道、これからの生き方をゆっくりに考える時間を過ごしてほしい」と考えている。

他に交流スペース1部屋がある。施設は12月7日午前10時のオープン予定。飯田さんは「心の交流ができる地域の居場所になるといい」と話している。

(2024年11月30日付 山梨日日新聞 19面)

問1 甲府市中心街で古民家をリノベーションした施設が、オープンします。施設内の

コミュニティスペースは、どのように活用していきますか。

問2 施設には、何が展示されていますか。
